

1. 基本情報

- ・日時：2016（平成28）年12月15日（木） 第2校時（9時30分～10時15分）
- ・場所：東京学芸大学附属世田谷小学校 4年1組教室
- ・学年：第4学年1組 35名（男子18名，女子17名）

2. 単元名

比べて考えよう 『くらしの中の和と洋』

3. 単元について

3.1 単元の特性

(1) 教科からみた特性

- ・和と洋のイメージから対になる言葉を集める言語操作体験や『くらしの中の和と洋』を読むことで、対比して物事を捉えると分かりやすいということを獲得していく。対比するには共通した観点が必要であり、集めた言葉の中から興味関心のあるペアについて対比する観点を見出し、自分なりに両者の良さを引き出す説明文を好みの表現形態でまとめることで、対比して物事を捉えたり表現したりすることのよさを学ぶことができる単元である。

(2) 汎用的スキルや態度・価値の育成の観点からみた特性

- ・ものごとを分かりやすく正しく伝えるためには、対比して説明すると分かりやすいことを『くらしの中の和と洋』を読むことで理解していく。身の回りのくらしの中で取り入れられている和と洋の物事から、興味関心の高いものについてパンフレットなどにまとめて伝えていこうとする学習をとおして今まで知らなかったそのものへの理解が深まったり、両者を比較するための観点を見出したり機能をまとめたりしていくことで伝える力を活用したりする単元である。

3.2 単元の目標

(1) 各教科固有の単元目標

- ・（関心・意欲・態度）和と洋の言葉集めや『くらしの中の和と洋』を読む中で、対比して物事を説明したり理解したりすることのよさを考えたり、選んだ言葉の対比関係を説明しようとしたりしている。
- ・（書くこと）興味関心のあるくらしの中にある和と洋の言葉について、対比の観点を絞りパンフレットなどに説明文として書きまとめている。
- ・（読むこと）『くらしの中の和と洋』の筆者が、住居についてそれぞれのよさを伝えるために観点を明確にした対比構造を用い説明していることを読んでいる。

(2) 新しい教育モデルとして重点的に育成すべき内容

① 汎用的スキル（Skills）（伝える力、批判的思考力）

- ・『くらしの中の和と洋』を読むことで、対比して物事を説明することのよさと、対比するために観点が必要である理解し、論理的に筆者の伝えたい両面のよさを読み取る「批判的思考力」。また、その力を自らの表現に活かしてパンフレットなどに分かりやすく正しくまとめ「伝える力」。

② 態度・価値（Attitudes and Values）（好奇心・探究心）

- ・興味関心から選んだ和と洋で対になる言葉について、『くらしの中の和と洋』の筆者が住居についてそれぞれのよさを伝えるために用いた対比構造を利用して、そのよさをより詳しく知りたいと思い、対比の観点を立てて探求していく力。

3.3 児童の実態

説明的文章を読んで、そこで説明されている内容について興味が深まったり、そこには説明されていない事柄に関心が広がったりと、テキストから刺激を受けてさらにその先に情報を求めていくことは、できるようになってきた子どもたちである。一方で、書かれている事実には意識が向くが、自分がなぜその事実に興味がもてたのかなどの書かれ方に意識が働く子は少ない。

一方、新聞形式で表現する場合では、記事の内容と見出しの関係を考えるなど中心点を意識できるようになってきた。

そこで、どのように書かれているのかという書き方に注目させることで対比のよさを理解し、そのことを使って興味のある事柄をパンフレットなどで表現する学習を連続的に行うことで、対比で説明することが、ものごとを理解する枠組みとしてだけでなく表現方法としても有効であることを身に付けさせたい。

3.4 教材観

導入として、「和と洋」のそれぞれからイメージできる言葉集めを行う。楽しく身の回りにある言葉を集めると、一定数の語彙が集まった段階で自ずと観点を意識した分類・整理が始まる。この自然発生的に観点を意識する活動を組むことで、語彙から物事を意識して認識できるようになる。そこで、新しく「対になる言葉」という本単元のキーワードを与え分類・整理することで、対比構造や概念を体得しやすくすることに役買うことになる。

中心教材としては、説明的文章の『くらしの中の和と洋』と出合わせる。著者は、和と洋の衣食住について両面のよさを取り入れて生活していることを主張するために、「住」について対比する観点を明確に示して論を進める表現構成を用いている。また、合わせて「衣」や「食」についても考えてみましょうと、読者にその後の探求を誘っている表現をしていることから、この読みから対比構造のよさを読み取り、興味関心のある言葉を調べて文章にして説明したいという、対比を意識した表現活動のゴールを想起しやすい。

単元のゴールとしては、くらしの中にある和と洋の対になる言葉を説明するパンフレットなどに表現することとする。和と洋のイメージできる言葉から興味関心のある対になる言葉を選ぶことで、意欲的に取り組めることと、対になる言葉を対比する観点を考えることで、そのものへの深い理解と探究心も育まれると考える。

3.5 指導上の工夫（アクティブ・ラーニング活用方法も含む）

対比という思考概念を獲得・運用していくために、言葉集めから始めることで無理なく「対」の概念が理解できる。この「対になる」という概念が経験上理解できることで、次に出合う『くらしの中の和と洋』というテキストから、対比するためには両方を比べる観点が必要であることに気づきやすくなる。そして、観点を見付けることで物事に対する深い理解につながり、自分の見付けた対になる言葉に対しても探求してその事柄を表現したいと、伝える力を発揮する場が連続している。そこまでの予想をもって子どもたちの意見を取り入れて学習計画を立てていくことで、自ら学びに参加していく積極性と責任感を生んでいる。

3.6 単元の評価計画（評価規準・基準，評価方法）

評価規準		評価方法
・（関心・意欲・態度）和と洋の言葉集めや『くらしの中の和と洋』を読む中で、対比して物事を説明したり理解したりすることのよさを考えたり、選んだペアの言葉を説明しようとしていたりしている。 ・（書くこと）出来上がった作品が、対比の構造を活用した表現となっている。 ・（読むこと）筆者の主張を理解した上で、そのことを伝わりやすくするための工夫として、対比構造とその組み立てが読み取れるキーワードや問と答えの段落構成と表現を読み取ることができる。		・児童がノートに書いた内容が、本時の学習内容を反映されたものとなっているかをみとる。 ・出来上がった作品が、対比の観点を活用した段落構成と表現となっているかをみとる。
A（十分到達）	B（おおむね到達）	C（努力を要する）
・（関心・意欲・態度）選んだペアの言葉を対比するための観点をみ出し、それぞれの良さを説明しようとしている。 ・（書くこと）選んだペアの言葉のそれぞれの良さを説明するための文章に、観点を明確にして対比的に表現している。 ・（読むこと）筆者の主張を正しく読み取り、対比構造を含む段落構成がその読み取りを支えている表現上の工夫であることを理解して、自分の表現に活かそうと整理できている。	・（関心・意欲・態度）選んだペアの言葉を対比するための観点をみ出し、説明しようとしている。 ・（書くこと）選んだペアの言葉のそれぞれの良さを説明するための文章に、対比的に表現している。 ・（読むこと）筆者の主張を正しく読み取り、対比構造を含む段落構成がその読み取りを支えている表現上の工夫であることが分かる。	・（関心・意欲・態度）選んだペアの言葉説明しようとしている。 ・（書くこと）選んだペアの言葉を説明する文章を書いている。 ・（読むこと）対比構造と段落構成が分かり、筆者の主張を読み取っている。

3.7 単元の指導計画（全9時間）

時間	主な学習活動（時間数）	教師の指導・評価・留意点
第1次 (1/2 時間) 12月6日	・グループで和と洋から想像できる言葉を集める。	・語彙数を増やすため、対になる言葉が出ていないものを指摘し考えさせる。（教師の指導）
(2/2 時間) 12月7日	・和と洋のペアとなった言葉を分類・整理し、理由を考え表にまとめる。	・ペアの言葉を分類整理して、その理由を付箋を貼った模造紙に書いている。（評価）
第2次 (1/4 時間) 12月8日	・分類整理した経験から、和と洋のイメージの広がりを感じながら学習計画を立てる。	・集めた言葉から対になる面白さを表現したいというゴールに向かうよう、見付けた組み合わせやその理由を評価していく。（留意点）
(2/5 時間) 12月12日	・学習ゴールに向けて必要なテキストと出会い、個人で読む。 ・説明したいペアの言葉候補を挙げる。	・自分たちの学習のゴールに向かうために『くらしの中の和と洋』を読む必然性を生ませる。（留意点）
(3/4 時間) 12月13日	・段落構成をもとに読み取った内容や筆者の主張がどのような関係になっているか分析する。	・段落相互の関係を整理する手掛かりとして、接続語や指示語、問いかけと答えの関係を意識させる。（教師の指導）
(4/4 時間) 12月15日 本時	・和と洋の良さを具体的に整理する。 ・書かれ方での筆者の意図を見付ける。 ・説明するペアの比べる観点を必要な者同士集まり吟味する。	・『くらしの中の和と洋』から読み取った対比するための観点を、自分の説明するペアの言葉と置き換えて、ノートに書いている。（評価）
第3次 (1/3 時間) 12月19日	・説明する言葉について詳しく調べ、和と洋の対照表を作る。 ・パンフレットなどに表現する。	・どの観点で言葉を比較するのか、表にまとめている。（評価）
12月20日 (2/3 時間)	・パンフレットなどを完成させる。	・パンフレットなどに対比を利用した文章表現がなされているか。（評価）
12月21日 (3/3 時間)	・出来上がった作品を読み合い相互評価する。	・他者の作品に対して共感的に感想が述べている。（評価）

4. 本時（6／9時間目）

4.1 本時の目標

- ・『くらしの中の和と洋』を読み筆者の主張を整理し、対比構造とそのキーワードをなどからその表現の良さを自分のパンフレットなどの表現に活かすための整理ができる。

4.2 評価規準

- ・（関心・意欲・態度）（人間性）対比的に物事を説明することのよさが分かり、自分のパンフレットなどの表現に活かそうとしている。
- ・（読むこと）『くらしの中の和と洋』の内容を整理し、対比的に物事を説明するための観点やキーワードを見出したり、段落構成のよさを考えたりしながら読むことができる。
- ・（汎用的スキル）対比して物事を説明することのよさと、対比するために観点が必要であることを、自分のパンフレットなどの表現に活かすために整理できている。

4.3 前時までの学習

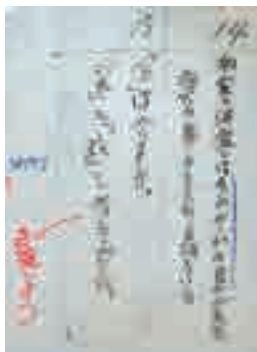
- ・ 1 時間目では、6 人の生活班に分かれて、和と洋から想像できる言葉を付箋に書いて集めた。付箋がたくさん溜まった段階で、子どもたちは自ずと整理を始め、分類していった。その時和と洋で対になる語がないものについては机間指導中に声をかけ、ペアになるように思考を促した。その結果、個人で考えていた言葉集めが、班で協力して見つからないペアを考えることができるようになった。
- ・ 2 時間目では、和と洋のペアにした言葉を分類・整理した。衣食住など、子どもたちなりの理由で分類・整理した結果を班ごとに巡回し、分類の視点によって同じ言葉でも違う仲間分けができることを理解した。
- ・ 3 時間目では、言葉集めの操作をとおして、自分たちの身の回りには和と洋の両方のよさに支えられているものがたくさんあること知り、そのことを表現して伝えたいという学習のゴールを確認し、学習計画を立てた。
- ・ 4 時間目では、伝えたい和と洋のペアの言葉の候補を決めた。そこで、子どもたちのゴールの表現と似ているテキスト『くらしの中の和と洋』を教師がモデルとして紹介し、個人で読み込んだ。
- ・ 5 時間目では、筆者の主張を読み取れているかを確認するために、個人で整理した内容を段落に合わせて全体で確認した。その後、クラス全体で筆者の主張を読み取ることができたのは、どのような段落構成になっていたからなのかを分析した。

4.4 本時の学習活動と教材

- ・ 本時の学習活動は①和と洋のよさを具体的に整理する活動と、②書かれ方における筆者の意図を見付ける活動と、③説明するペアの比べる観点を必要な者同士集まり吟味する活動の3つの活動を設定した。

4.5 準備物

- ・『くらしの中の和と洋』の段落ごとの読み取りをまとめた前時の板書コピーを配布した。



4.6 本時の学習指導過程（6／9時間目）

時配	学習内容と活動	・指導上の留意点 ★評価
導入 10分	1. 学習のゴールを確認し、『くらしの中の和と洋』から読み取れた和と洋のよさを具体的に整理する。 ・和室の床は畳で洋室はフローリングや絨毯が敷いてある。 ・和室は床に直接座るけど、洋室はイスなどに座る。 ・和室は人と人との距離を自由に変えられる。 ・洋室は目的に合わせたいすがあって疲れにくい。 ・洋室は何をする部屋か家具から分かる。 ・和室はいろいろな目的に使える。 ・過ごし方と床の様子で比べている。 ・家具を置くかどうかで比べている。	・パンフレットなどに表現するという目的を見失わないように児童に声をかける。 ・具体的なよさを挙げてもらい、徐々に書かれ方の方に意識を向けていく。 ・具体的内容から、対比する観点に気付くように対にして板書する。 ・発言された子どもの言葉を利用して観点をまとめていく。
展開 30分	和と洋をくらべて良さを伝えよう 2. 書かれ方について筆者の意図を見付ける。 ・両方のよさが説明されている。 ・2つを比べるように書いている。 ・問いかけと答えがある。 ・「一方」「それに対して」という言葉がある。 ・先に観点を挙げ、あとの段落で詳しく説明している。 ・「このように」とまとめを書き出している。 ・読者に興味をもってもらう前ふりが書かれている。 3. 説明するペアの比べる観点を必要な者同士集まり吟味する。 ・うどんとパスタを食べ方比べようと思います。 ・原材料や調理の仕方でも比べられるね。 ・ホテルと旅館は何で比べればいいですか。	・段落構成とキーワードとなる言葉の使われ方、対比の観点と説明の順序に子どもの気付きを整理して板書する。 ・自分の説明する言葉に置き換えて気付いた内容を転用できるように、和室と洋室と置き換えて板書する。 ★『くらしの中の和と洋』の内容を整理し、対比的に物事を説明するための観点やキーワードを見出したり、段落構成のよさを考えたりしながら読み取ったことを発言したり、ノートにまとめたりしている。 ・何が説明したい言葉を決めただけでは、パンフレットに表現できないかが分かるように代表例で整理師板書する。 ・観点を考えることで二つの言葉の説明がしやすくなることに気付き、自由に友達と協力できるように座席をフリーにする。 ・自力で解決できない子に寄り添い、一緒に考える。 ★対比的に物事を説明することのよさが分かり、自分のパンフレットなどの表現に活かそうと友達と協力して観点を探そうとしている。
まとめ 5分	4. 次時パンフレットなどに表現するには、何が決まっていればいいのか本時の学習をふり返り整理する。 ・ホテルと旅館では、見た目が違うことと定員さんの服装が違うこと等がありそう。 ・次までにギターと三味線では、弦の数が違う事と何があるか調べてこよう。	・選んだ言葉とそれを対比的に説明する観点を決められたか。または、決めてくる糸口がノートに書かれているか確認する。 ★対比して物事を説明することのよさと、対比するために観点が必要であることを、自分のパンフレットなどの表現に活かすためにノートに整理できている。

4.7 板書計画

十二月十五日（木）
 和と洋をくらべて良さを伝えよう

◎『くらしの中の和と洋』で読み取った良さ

・洋室（パスタ）

いすなどに座る フローリングや絨毯
 目的に合わせたいすがあつて疲れにくい。
 ・ ・ ・

・和室（うぐいす）

和室は床に直接座る 床は畳
 人と人との距離を自由に換えられる。
 ・ ・ ・

◎書かれ方の良さ

- ・両方の良さが説明されている。
- ・2つを比べるように書いている。
- ・問いかけと答えがある。
- ・「二方」「それに対して」という言葉がある。
- ・先に観点を挙げ、あとの段落で詳しく説明している。

（食べ方 原材料 調理の仕方・・・）

◎自分の言葉ではどうか考えよう

◎本時のまとめ

観点が決まると対比的に説明できて分かりやすい。
 ↓そのものを調べて良さが伝わる観点を考えてこよう。